

大会参加チーム募集要項

釜山大会 嶺南地域の大学を対象

ソウル大会 嶺南地域以外の大学を対象

参加条件

- 日本語を母語としない者。(※詳細は運営委員会に要問合せ)
- 韓国内所在の大学に在籍中の学生で構成され、所属大学の学科長の推薦を受けたチーム。
- 1大学から1チーム(3~4名)の出場とする。(※今大会から3名での出場も認めます。要問合せ)
- 4人(3人)のうち3人(2人)は日本滞在歴が1年未満であること。1人は5年未満まで認める。

構成

1チーム3~4名(立論・質疑・第1反駁・第2反駁) (※3名の場合は立論担当者が質疑を兼任)

規則

大会ホームページの「大会規則・細則 (<http://goo.gl/oDG5gE>)」でご確認ください。

対戦

各大会予選2試合(肯定・否定)の後、上位チームで(準決勝)決勝戦を行う。
ソウル・釜山両大会の優勝及び準優勝チーム(計4チーム)は、10月1日(土)の全国杯へ出場。

*本論題は、ディベートゲームのために運営委員会が選定したものである。

「韓国は育児休業を義務化するべきである。是か非か。」

[プラン]

論題

- 1) 現行の産後休暇に加え、出産から2年以内に、父母合わせて6ヶ月の育児休業を義務付ける。
- 2) 期間は、共働きの場合は、父親に3ヶ月以上が義務付けられ、片親世帯を含め、有職者が父母どちらか一方の場合は、該当の親に6ヶ月が義務付けられる。
- 3) 休業中は、250万ウォン/月を上限に給与の8割を国が負担する。
- 4) 企業が休業取得者に不利益を与えた場合、企業に罰則を課す。

※その他詳細は、「<http://goo.gl/Ui31EP>」をご覧ください。

<ソウル大会・釜山大会それぞれ>

団体賞) 優勝(賞状・賞金)、準優勝(賞状・賞金)、3位(賞状)

個人賞) ベスト立論賞、ベスト質疑賞、ベスト第1反駁賞、ベスト第2反駁賞 (それぞれ賞状)

<全国杯>

賞

団体賞) 優勝(賞状・トロフィー・9泊10日間日本招聘3名)

準優勝(賞状・楯・9泊10日間日本招聘2名)、3位(賞状・楯)

個人賞) ベストディベーター賞(賞状、副賞)

✓副賞内容は事情により変わることがございます。

✓日本招聘に参加できる学生は、以下の条件を満たした学生に限られますので、ご留意下さい。

- ・日本に6ヶ月以上滞在した経験がない者、30歳未満の者、日本政府招聘プログラムでの訪日経験がない者。(ディベート大会、弁論大会等、大使館、総領事館主催行事による訪日研修含む)

申込

1次エントリー締切 : 8月8日(月)24:00 ⇒ <http://goo.gl/forms/LARW8hON32WiGarX2>

※メンバー登録などは、参加申込後、別途ご連絡いたします。

お問い合わせ

韓国大学生日本語ディベート大会運営委員会

運営委員会メールアドレス : nihongodebate@gmail.com

大会公式ホームページ : <http://nihongodebate.wix.com/korea>

大会公式フェイスブック : <http://www.facebook.com/KoreaJapanDebate>

ディベートとは

「ディベート」とは、ある論題について異なる立場に分かれて討論すること。教育目的のために行う「教育ディベート」は、①あらかじめ設定された論題を用い、②肯定、否定の両者の立場に分かれ、③一定のスピーチ時間、順番等の進め方の試合形式に従って行うもの。多くの場合、競技ディベートとして行われており、その目的は、単に討論者の優劣や勝ち負けを争うのではなく、討論に向けて準備し、実際に討論し、討論の経緯を振り返るといった一連の過程を通して、語学力向上やテーマに対してより深い理解を得ることにある。また、松本(1990)は、ディベートの教育的効果を①客観的分析力が身につく、②論理的思考力が身につく、③発表能力が身につく、④よりよい聞き手になれる、⑤情報収集能力が身につく、の5つであるとしている。韓国では10年ほど前から英語ディベートの人気が高まり、最近では、学校教育においても英語や韓国語によるディベート活動が積極的に取り入れられてきている。

大会の目的とコンセプト

日本語ディベート大会を通し、日本語4技能は勿論、調査・発表といったアカデミックスキルの更なる向上を図ると同時に、21世紀型スキルを兼ね備えた「日本語ができる社会人リーダー」を育成する。また、多文化共生と言われる現代において、異なる文化・価値観を理解し交流する上で必要な思考力や豊かなコミュニケーション能力を養う場とする。更には、韓国の日本語教育へのディベート学習を普及させ、日本語学習に寄与することを目的とする。

- 交流と協力（学生間・大学間・教員間）、議論、質疑応答、即興がある日本語大会
- スピーチ大会の枠を破る、時代のニーズに合わせた新たな大会（教授法、評価法の進化にあわせ、大会も多様化が必要）
- 大会を通して、韓国の日本語教育を世界に発信する

大会ルール

(1) ディベート・フォーマット (Academic Policy Debate)

肯定側立論(6分)/否定側準備時間(2分)/否定側質疑(3分)

否定側立論(6分)/肯定側準備時間(2分)/肯定側質疑(3分)

否定側準備時間(2分)/否定側第1反駁(4分)

肯定側準備時間(3分)/肯定側第1反駁(4分)

否定側準備時間(2分)/否定側第2反駁(4分)

肯定側準備時間(2分)/肯定側第2反駁(4分)

(2) チーム構成と役割

3~4名で構成され、立論・質疑・第1反駁・第2反駁を1名ずつ担当。(3名の場合は質疑を兼任) 肯定否定共に同ステージ(役割)を担当。

(3) 勝敗の決定

A: 試合の勝敗は3名の審判により多数決で決定(決勝は5名)

B: 各チーム2試合行い、上位チームで(準決勝)決勝を行う。勝敗数が同じ場合は得票数が多いチームを、得票数が同じ場合は、個人点の総計が多いチームを優先する。その他ルールは、ホームページの「大会規則・細則 (<http://goo.gl/zDhJY4>)」でご確認ください。

第1回 韓国大学生日本語ディベート大会

日時: 2012年9月22日(土) 場所: 東義大学校

参加大学: 釜慶大学校 釜山大学校 釜山外国語大学校 昌原大学校 啓明大学校 慶星大学校 新羅大学校 東西大学校 東義大学校 又松大学校

論題: 「韓国は積極的安楽死を法的に認めるべきである」

優勝: 昌原大学校 準優勝: 東西大学校

第3位: 慶星大学校、東義大学校

第2回 韓国大学生日本語ディベート大会

日時: 2013年9月29日(日) 場所: 明知大学校

日時: 2013年10月5日(土) 場所: 新羅大学校

参加大学: 大真大学校 金剛大学校 光云大学校 明知大学校 明知専門大学校 祥明大学校 聖公会大学校 釜山外国語大学校 昌原大学校 忠南大学校 啓明大学校 慶星大学校 新羅大学校 東西大学校 東義大学校

論題: 「韓国は選挙の棄権に罰則を設けるべきである」

優勝: 明知大学校 準優勝: 釜山外国語大学校

第3位: 忠南大学校、東義大学校

第3回 韓国大学生日本語ディベート大会

ソウル大会

日時: 2014年9月20日(土) 場所: 明知大学校

釜山大会

日時: 2014年9月27日(土) 場所: 釜山外国語大学校

全国杯

日時: 2014年10月9日(木) 場所: 釜山外国語大学校

参加大学: 金剛大学校 大真大学校 明知大学校 明知専門大学校 祥明大学校 聖公会大学校 忠南大学校 韓国外国語大学校 慶星大学校 東西大学校 東義大学校 釜山外国語大学校 新羅大学校 嶺南大学校 昌原大学校

論題: 「韓国は、自動車取得時に駐車スペースの確保を義務付けるべきである。是か非か。」

<ソウル大会>

優勝: 明知大学校 準優勝: 韓国外国語大学校

第3位: 祥明大学校、忠南大学校

<釜山大会>

優勝: 釜山外国語大学校 準優勝: 新羅大学校

第3位: 東西大学校、東義大学校

<全国杯>

優勝: 明知大学校 準優勝: 釜山外国語大学校

第4回 韓国大学生日本語ディベート大会

ソウル大会

日時: 2015年10月3日(土) 場所: 祥明大学校

釜山大会

日時: 2015年10月4日(土) 場所: 東西大学校

全国杯

日時: 2015年10月9日(金) 場所: 東西大学校

参加大学: 大真大学校 明知大学校 祥明大学校 聖公会大学校 建国大学校 慶星大学校 東西大学校 東義大学校 釜山外国語大学校 新羅大学校 東亜大学校

論題: 「日本は外国人労働者の受け入れを拡大するべきである。是か非か。」

<ソウル大会>

優勝: 聖公会大学校 準優勝: 建国大学校

第3位: 祥明大学校

<釜山大会>

優勝: 東義大学校 準優勝: 慶星大学校

第3位: 釜山外国語大学校、東亜大学校

<全国杯>

優勝: 東義大学校 準優勝: 聖公会大学校

第3位: 慶星大学校、建国大学校

